

平成20年度

研究だより

南部小学校

H20.11.10

No. 8

<兼子>

第8回授業研究会（11月5日）ご苦労様でした。

2の2・算数科・「形をつくろう、見つけよう。形はかせをめざせ！」（三角形と四角形）



松本充恵子先生の授業から学ぶ

<成果>

【仮説1について】

- ・形博士を目指して、形学校からの問題（お手紙が届いている）を解くという設定は効果的であった。子どもたちが興味を持って楽しく取り組むことができていたのではないだろうか。
- ・箱から一つ一つ問題を取り出す際に、一つの角の部分だけ見えるように取り出し、三角形か四角形か予想しながら確認したことによって、子どもたちの反応もよかった。課題に向かってやる気を出して取り組もうという姿が感じられたのではないだろうか。
- ・三角形と四角形のどちらにも属さない形に対して、自分たちなりの名前（にせ三角形・レモンピザやにせ四角形・うすの形）を付けて区別したことも、自分の考えを持たせることに役立ったのではないだろうか。

【仮説2について】

- ・ペア学習でとなりの人の考えを確かめたことにより間違いに気づいた子がいた。友達の間もわかることにより、より見方が深まっていったのではないだろうか。
- ・また、他の子はどう書いているだろうと関心を持って友達の書いたものを見ようとしていた。自分の考えが持てた子にとっては有効だったのではないだろうか。

<課題>

- ・プリントに書く際、直線で囲まれている形（閉じている）や曲がっている線ではだめだということまで扱うとしたら、試しの問題をさせてみるという方法もあったのではないだろうか。
- ・「角」「形」の字は、まだ習っていない字なので、「さ」や「し」の記号として表させても理解を確かめる方法としては早く確かめることができたのではないだろうか。
- ・学び合いを考えると、ペア学習への指示として右の人から話すなど「順番を決めて話しましょう。」などとすることによって、自信のない子も必ず自分の考えを伝えることが

できるようになるのではないだろうか。

- ・自分の考えを伝えるためのペア学習なので、自分の考えがはっきりしないうちには、なかなか教え合いが難しいのではないだろうか。
- ・確かめは、子どもにさせてもよかったのではないだろうか。子どもの発言を生かして共通のものをまとめていくことができたのではないだろうか。
- ・他の子がまだ考えているのに答えを発言してしまう子の生かし方として、他の人の良さを見つけさせてほめる役を与えたり、今日の考えのまとめ役を与えたりしていくことも考えていく必要がある。

6の1・算数科・「中学校へ向けて 分数制覇！」(分数のかけ算とわり算)

鈴木伸治先生の授業から学ぶ



<成 果>

【仮説1について】

- ・文章理解しての問題把握でなく、カステラを5等分し先生が5分の1食べてしまうという寸劇により、インパクトのある導入で子どもの興味関心を引き、問題を何とか解きたいという意識を45分間ずっと持たせて取り組ませることができたのではないだろうか。
- ・とても難しい、そして大事な課題の場面である。分数を割るという意味を考える上でシート(面積図)を手がかりに考えるという方法は、とても有効だったのではないかと。

【仮説2について】

- ・1人の自力解決では低位の子どもは難しい。そこで、小グループ(4人くらい)で話し合い集団解決の中で自力解決することができていたのではないだろうか。
- ・また、上位の子どもであっても、答えは教科書やドリルのヒントを参考に分かっていてもグループの中でうまく説明できないことから、試行錯誤していた。数学的な考え方を育てるのには良い場面だったのではないだろうか。
- ・グループの中で「なぜ」「どうして」という声が聞かれ、自分が納得するまで分かっていたいという気持ちが伝わってきた。また、とりあえずやってみようというように解決に向けて努力してみようという姿勢が見られたのではないだろうか。

<課 題>

- ・5分の1を食べてなくなると、下の紙の部分は残っているが、現在見えて残っている部分と考えてしまう可能性がある。もととする1の捉え方をはっきりさせておく必要があるのではないだろうか。
- ・話し合いが進む中で、自分たちのグループの分からなかったところなどを他のグループと交流することにより、より考えを深めることができたのではないだろうか。
- ・集団解決や自力解決後の全体交流の方法は賛否両論があるだろう。ミニテストの前にそれぞれのグループで解決してすぐ取り組むのか、全体で確認してから取り組むのか、研究を進める中で工夫していく必要があるのではないだろうか。